

令和2年度学校評価
(静岡サレジオ中学校)

静岡サレジオ学校評価委員会
静岡サレジオ中学校 校長 沼波岳臣

教育目標 (誠実な人間、良き社会人の育成)

| 評価項目 | 評価内容 | 自己評価 | | 学校関係者評価 |
|------|---|------|---|--|
| | | 評価点 | 学校としての反省・改善策 | |
| 1 | 教育目標 本校の教育目標「誠実な人・よき社会人の育成」「清い心・たゆまぬ努力」を達成するための取組みができています。 | A | 本校の教育目標を土台としたよりよいサレジオ像を探究すべく、日々の学校生活が構成されている。中学入学時に創立者ヨハネ・ボスコの小伝を読むことで、神と人を愛し、誠実・勤勉な社会人を指すというゴールセッティングを行っている。 | |
| 2 | 宗教指導 本校はカトリック学校として全ての教育活動を通じ、その使命を果たしている。 | A | 聖書の教えを基礎として、カトリックミッション校の歴史と伝統を堅持しつつ、生徒の発達段階や時代の変化に適切に対応する宗教行事や宗教教育を行った。コロナ禍にあって、致し方なくオンライン聖母祭やオンラインミサを挙げたが、想像以上に反響があり、ICTと宗教教育の親和性を感じた。 | ○ミッションスクールとして一番大切な豊かな心がサレジオの子どもたちに育っているのを実感している。他者への思いやりの心が、子どもたちの自発的な発想から生まれている現実には本当に素晴らしいことだと思う。これからもドンボスコの予防教育、全人教育を通して、皆様が子どもたちの教育に献身してほしい。 |
| 3 | 教育課程 本校の教育課程は教育目標を達成するために、適切な工夫がされている。 | A | 国語・数学・英語の3教科は標準より多く授業時数を設定し、小論文や英語多読など特色ある授業を行っている。また、MYPカリキュラムを作成し、全教科でユニットプランナーおよびシラバスに基づく授業を実施した。 | ○MYPの説明を受けたことはあるが、漠然としていて、いまい何をどんな風にやっているのかわからない。教科ごとにMYPがどのような学習をしているとわかるものがあると良い。 |
| 4 | 評価・認定 本校では生徒の努力の結果を正当に評価し、公正な単位認定が行われている。 | A | ルーブリックを用いた自己評価、教員による客観評価が定着してきた。また、定期考査のみならず、単元ごとの学習の定着と総括課題への取り組みなどで総合的な評価を行っている。引き続き、日々生徒の意欲を喚起し、学びの質を高める評価の在り方を研究して参りたい。 | ○少し特待生の人数が多いように感じる。 |
| 5 | 教科指導 本校では落ち着いた環境で生徒の学力をのばすための授業が行われている。 | A | MYPユニットプランナーに基づく探究型授業が定着してきた。探究の問いと単元のゴールを提示することで授業が構造化され、教師によるinputは最小限に、生徒自らが思考・判断・表現するoutputは多くして、活発な学びが実現している。iPadが7・8年生にも一人一台環境になり、学習状況の見える化と学びの蓄積、生徒同士の学び合いは飛躍的に向上した。課題は、生徒の学力差が埋まらないどころか広がる点である。 | ○コロナ禍で今までとは全く違う学校生活で学校として色々な場面ですばやく対応して頂いて、オンライン授業がよかった。 ○中高全体に教科別にどれくらいの人数の先生がいるのか、また名前の知らない先生も多いので、年に一度くらいはそのようなものがあるのと良い。 ○コロナ禍で早急なオンライン授業に対応で遅れることなく進められてよかったと思う。 |
| 6 | 授業研修 教員の資質向上のため、授業研修や校内研修等が適切に行われている。 | A | バディ制(教員が二人一組となり、見せ合い授業を実施)を導入し、互いに評価・学び合いを行った。効果的かつ効率的な総括課題の設定と適切な評価方法、児童・生徒へのフィードバックを追究するために年3回(7月:国語・11月:英語・1月:数学)の研究授業を行った。iPad導入に伴い、教師の誰でもいつでも使えるよう、実践的なICT研修も行った。 | |
| 7 | 学級経営 本校では、学級活動や個別面談などを通じ生徒・保護者の意見が掌握されている。 | A | 担任は職員室ではなく、できる限り自分の教室で過ごすアシスタントを実践することで、クラスの変化やニーズに対応した。保護者には学年通信、オンライン配信、年2回の面談を通じて生徒の状況を報告し、コロナ禍にあって教員も生徒も前向きに努力していることを報告できた。 | ○全体的に先生方は皆とてもよく生徒のことを思って指導してくれていると思う。 |
| 8 | 生活指導 生徒を正しく導くために教師が共通理解をもち、生活指導に取り組んでいる。 | A | 担任・主任・生活指導部・養護・教頭で常にチームを組み、情報共有して保護者に来校を願い、適切な対話と対応を心掛けた。その結果、家庭の協力も得られ、難しいケースも時間とともに好転することがいくつもあった。iPadを貸与したことによりスクリーンタイムが増え、使い方に一部不正使用があったのは今後の課題である。 | ○iPadの貸し出しである程度生徒の使い方がわかるなどとても良いことだと思った。 ○先生方の中にはご挨拶してくださる方もいてとても嬉しい。 |
| 9 | 進路指導 生徒の進路達成のために、適切な指導と学力養成が行われている。 | A | カリキュラムのコース選択のために、アドミッションポリシーや学びの特長を整理し、ミドル全体で共有した。8年教員は、生徒が「自分らしい学び方」を見つけ、志望理由書を何度も書いて主体的にコース選択に臨めるよう指導した。10月にはミドル対象のソフィアDPコース説明会を実施し、これまでと異なる目線でソフィアを選択する生徒が出始めた。 | |
| 10 | 安全管理 生徒の健康・安全を守るために、通学・防犯・保健の適切な指導や施設管理が行われている。 | B | コロナ禍で、今年度は学園全体での防災訓練を実施できなかった。コロナ禍中に、もしも南海トラフ地震が発生したらと想像すると非常に恐ろしい。健康管理に関してはコロナ感染防止対策に細心の注意を払った。時差登校やオンライン授業の選択、マスク着用、三密の回避、手指や物品の消毒、日々の検温、黙食などの対策により、校内で感染者が出ることはなかったのは何よりである。 | ○今年度はコロナ禍のため、全校生徒での避難訓練ができなかったが、常に避難経路や集合場所、保護者との連絡方法などの確認や備えができていればいいと思う。 ○マスク着用、三密の回避、消毒、検温、黙食の徹底で校内の感染者がいなかったのは先生方の努力の結果だと思う。 |
| 11 | 校務分掌 教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って取り組んでいる。 | A | 各部長や主任の指示のもと、全教員が責任感をもって職務にあたっている。分掌間のヨコの連携もネットワークがよい。広報募集活動と中学入試(一般・特待)では、特に国語科・数学科が活躍したが、過重な負担になった感はない。反省をもとに、よりよい校務分掌につなげたい。 | |
| 12 | 行事運営 校内外で行われる学校行事は教育目標に照らして十分にその役割を果たしている。 | A | 新入生研修やキャンパスツアー、研修旅行などの宿泊行事、祈りと学びを体験的に深める宗教行事、体育や芸術などの文化的な催しなど、どれもサレジオ特有のオラトリオの精神に基づいて実施されるはずだったが、今年はコロナにより多くが中止となった。それでも、体育祭やミドルクリスマス会は細心のコロナ対策と創意工夫で実施にこぎつけ、多くの生徒の笑顔に包まれたことは大きな喜びであった。 | ○楽しみにしていた行事がなくなり生徒たちのモチベーションが下がる中、先生方は常に生徒に寄り添いいつも話しかけてくださることも良いと思う。 ○コロナが落ち着いた後の授業・各種行事等の運営をどのように行うかを検討する必要性を感じる。 ○子どもたちが楽しみにしていた長崎への研修旅行の中止は残念だった。 ○行事などが中止になり、生徒たちの力を発揮するチャンスができなかったことは残念。 |

| | | | | | |
|---------|-------|---|---|---|---|
| 13 | 管理運営 | 学校組織の管理運営系統が明確で、役割分担や協力体制が整っている。 | A | 管理職も教員も常に生徒のそばにいて、報告・連絡・相談・指示を密に行い、保護者とも迅速に連携できる体制をとっている。PとOとも常に情報共有し、一つの学校としての目線をもちつつ、「ミドルらしさ」を大切にしている。各分掌責任者同士、よく連携して課題を吸い上げ、目標達成型の管理体制を追究したい。 | |
| 14 | 施設・設備 | 本校の施設、設備は生徒が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。 | B | 近年のICT環境整備により、コロナ禍にあってもすぐオンライン授業が実施できた。昨年来の懸案だが、台風や大雨の際、廊下の天井や外壁の雨漏りや、エアコン起動時の異臭は応急処置にとどまり、大規模修繕はできていない。 | ○各校種共に施設・設備の老朽化による生徒・児童の安全面に不安を抱えていることは心配。 |
| 15 | 課外活動 | 放課後の部活動や生徒会活動を通じ、教師が常に生徒と「共にいる」よう努めている。 | A | 放課後にはサレジオメソッドを実施し、e-learningやメンター、Basic / Premium English、各部活動など、生徒それぞれの必要に応じた学習や活動に向かえるよう工夫を凝らしている。生徒の嘆願から始まったかるた同好会も好評である。一方で、毎年増えていく活動内容をどう整理し、学園の方針の下、選択と集中を図るかが課題である。 | |
| 全般、総合評価 | | | A | 変えるべきは変え、残すべきは残す。両者の線引きの難しさはあるが、それを見分ける智慧をもって実行に移してきた。2020年代の始まりの年、教員の情報共有も生徒の学習成果物もネットワーク上で一覧できる時代になった。ICTにより教員の働き方も生徒の学び方も大きく変わったことを実感する。Society5.0は加速する一方だが、それでも人に近づき、語りかけるサレジオの教育は決して失われていない。引き続き、時代に敏感であったドン・ボスコのまなざしを忘れずに、教職員一同力を合わせて、誠実で献身的なサレジオ生を育てていきたい。 | ○総合評価Aでいいと思う。 ○今年度はコロナ感染症の対応に振り回されたが、サレジオの対応は他校に比べて良い評価であると聞いている。 ○先生方の真摯に取り組まれている様子を窺い知ることができた。 ○コロナ禍にあっても先生方は一生懸命取り組んでいることがよく分かった。 |

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

全般的に肯定的なご評価を頂き、大変嬉しく思います。「子どもたちと共に歩む」というドンボスコの教育の真価を、コロナ禍という逆境の中で発揮できたことは、教職員にとって一番の誇りです。驕らず、慢心せず、新年度は校舎設備の改善に学園全体で力を入れて、また前進して参りたいと思います。